

新たな芽吹き

弁護士法人大江橋法律事務所
弁護士 竹田 昌史

PROFILE

先日、中国人の友人から嬉しい連絡がありました。なんとその友人が働く会社が米国のナスダックに上場したということです。私は、上場のニュースよりも、その会社の逞しさとスピード感に改めてビックリしました。というのも、2023年の夏に「中国からの風だより」の中の「商魂逞しい中国ベンチャー」というテーマで、苦境に立たされたこの会社の発想の転換と前向きな姿勢を取り上げたことがあったからです。

当時、中国の急激な政策変更と規制強化の影響で、その会社は、従来のビジネスモデルを引っくり返されてしまい、前途多難で従業員も半分に減っている状況でした。ところが、その会社は直ちに方向転換を図り、昔から儲からないビジネスとして誰も参入しなかったニッチな事業分野に参入し、そこに持ち前のテクノロジーを持ち込んで新たなビジネスを始め、中国国内のベンチャー株式市場に上場したのです。

私はその後の状況を特にウオッチしていなかったのですが、その会社は入念に準備をして米国上場を果たしていたのです。当然ながら、米国上場しても株主から支持を得られなければ退場を余儀なくされますが、非常にニッチな分野とテクノロジーを掛け合わせるという発想の転換と、数年かけて事業を伸ばしていくスピード感到感動を覚えました。

更に、上記の話とは別ですが、先月、中国のある若い事業家の人と食事をする機会があり、これから日本で展開しよう

としている環境ビジネスについてお話を伺いました。その際、私は彼が話すビジネスモデルの中に中国が全く出てこないことにとっても驚きました。というのも、数年前であれば、中国の方と話をすると中国国内ビジネスがいかに大規模で有望かという話をされることが多かったように思います。しかし、彼は、まずは東南アジア等の国々で自分のビジネスモデルが通用するかを実験し、その結果を踏まえて、他の国々で同じようなビジネスをする事業家とネットワークを結んでグローバルに展開したいと考えており、東アジアでの実験的市場として日本を考えているというのです。彼のビジネスが成功するかどうかは、私には分かりません。ただ、初めから自分の母国以外の国々で事業をすることを前提に発想していく考え方に、従来の中国国内型の発想に縛られない斬新な印象を受けました。

日本にいと、2024年の中国といえばネガティブな情報にしか触れませんが、現地にいる私の目からすると、中国の人達は2016年に私が上海に赴任した時と比べても、着実に質的な変化を遂げているように思われます。日頃、頭が固くなりがちな私自身、見習いたいと思う次第です。

以上

具体的な事案に関するお問い合わせ☒メールアドレス：info_china@ohebashi.com

本ニュースレターの発行元は弁護士法人大江橋法律事務所です。弁護士法人大江橋法律事務所は、1981年に設立された日本の総合法律事務所です。東京、大阪、名古屋、海外は上海にオフィスを構えており、主に企業法務を中心とした法的サービスを提供しております。本ニュースレターの内容は、一般的な情報提供に止まるものであり、個別具体的なケースに関する法的アドバイスを想定したものではありません。本ニュースレターの内容につきましては、一切の責任を負わないものとさせていただきます。法律・裁判例に関する情報及びその対応等については本ニュースレターのみには依拠されるべきでなく、必要に応じて別途弁護士のアドバイスをお受け頂ければと存じます。